



中目黒「Forged」の外観 夜景

今月のトーク/monthly talk

建て主

今月は中目黒に共同住宅ビルを建てられたCさんの話です。

Cさんは、祖父の代からの木造建築の工務店を営まれています。銀座の料亭など数奇屋建築もこなす工務店として、長年お仕事をされてきました。親子3代同じ小学校に通われています。

中目黒は桜の名所として、最近では若い人の間で人気のスポットです。小さな目黒川の両岸に植えられた桜はそれほど大きくはありませんが、遊歩道も整備されて、近くにはブティックやしゃれた飲食店が増え、最近では建替えラッシュだそうです。

数年前おばあさまが他界されたのを機に、Cさんも古くなった自宅の建替えを計画、賃貸住宅を下層に設け、会社の事務所も置くことにしました。

Cさんは計画後、弊社施工の新築物件の内覧会などを頻繁に訪れました。そして「新しい共同住宅の建物を見て、結局ローコストで賃貸住宅を建てるとなると、あの方法しかないという結論に達しました」と、コンクリート打ち放しで、内装も余計なものを排除した方法を選択されました。「遮音性とか防火性能の面からも共同住宅では、やはりコンクリートになりますね。意匠の面から、鉄骨造や混構造に興味がなかったわけではないのですが…」とおっしゃいます。

さらに日ごろ自分の仕事で凝った作り付けの家具や建具を作っているせいか、自宅については「がらんどろがいい、無駄な仕上げとかやりたくなかった。」と笑うCさん。とにかく合理的に、面倒くさいことは避けてというのを念頭に設計の鈴木基紀さんと綿密な打ち合わせを重ねました。

「鈴木先生とのやりとりは勉強になりましたよ。いつもは低層、せいぜい

2,3階じゃないですか。高層だと自由度が減るし…。最初はもっと簡単に考えていましたが、実際にやってみると、単価に反映されない精度が求められるので大変ですね。これはほんとにシビアだなと、今回初めて施主をやらせてもらってわかりました。雨仕舞いの確保とか言うのは簡単だけど、建物は人間が作っているのだと改めて思います。常識から外れるようなことをやるとろくな結果にならない。辰さんの仕事は変更が当たりまえという現場が多いけれど、ここまでやるところなかなかいませんよ。」とCさんはいつもとは逆の立場で感じられたことを率直にお話くださいました。

「日ごろお客様の仕事を受ける側からすれば、自分が建て主になったときは無駄な仕事はさせまい、するまい、と思うじゃないですか。でもね、細部に行くほどだんだん自分の視野がせまくなっちゃう。いざ自分が意思決定しなくてはならない場面になるとぎりぎりまで鈴木先生と引っ張ってしまって、最後はほとんど素人でした(笑)。建てる側となるとそれはまた別ですね。設計と施工は違います。ほんとに辰さんに感謝していますよ。」

そしてめでたく竣工の運びとなり、賃貸部分はあっという間に契約が入りました。住宅は1戸のみで他はすべて事務所です。入居者は映画関係者などで、やはり都心に近くフットワークの良い点、洗練されたデザインがクリエイターたちの心をつかんだようです。

夜になると中で仕事をする人々の姿が浮かび上がります。目黒川の桜を眺めながら、仕事に、オフタイムに、都心の暮らしを愉しむ—ちよっと贅沢な空間が出来上がりました。

Forged 新築工事

中目黒の鍛造住宅

この建物は目黒区青葉台、山手通りと目黒川に挟まれた路地に面して建つ。用途は、5,6階を建築主の専用住宅とする7世帯の集合住宅であり、コンクリートを主体としたデザインである。

構造は鉄筋コンクリート「ラーメン構造」。昨今流行りの「壁式ラーメン構造」のデザイン的な魅力に後ろ髪をひかれながらもこれを潔く見送り、この規模に最もふさわしい「従来」の「ラーメン構造」を骨格として選択した。

さて、建築主はこの地、目黒区青葉台で3代続く工務店を営んでいる。この建物の設計・監理は一貫して建築主との協働作業で進化した。建築主は都内における類似用途のデザインをほぼ調べ尽くし、様々なアイデアが組上に載せられた。基本設計段階では「思考錯誤」が連続したが、今振り返ると、建築主との距離を縮める格好の時期でもあった。

着工後も幾多の紆余曲折があったが、今、こうして完成した姿を眺め、この建物に「凛(りん)とした佇まい」、ある種の「凄み」を感じることがあるとすればそれは、プロセスにおける「堆積された思考錯誤の厚み」によるものかもしれない…。

建物名は「Forged」と命名された。鍛造(たんぞう)という意味で、「金属を叩きカタチを作り出す」という意味である。鑄造(ちゅうぞう)と対をなす言葉であるが、鑄造に比べ、鍛造は「肉薄の緊張感」を想起させる。かつてルイス・カーンは鉄筋の役割を「不思議な魔術師」と形容した。建物名「Forged」は、ウルボン筋(高強度の鉄筋)の採用により実現した、美しい構造体への「ささやかなオマージュ」でもある。

最後にこの場を借り、工事主任の畠中広隆氏をはじめ、竣工間際まで設計変更の受け入れを辛抱強く許容された工事関係者に敬意を表し、感謝の気持ちを伝えたい。(鈴木基紀)



所在地: 東京都目黒区
構造: RC造 地上6階
用途: 共同住宅
設計: 鈴木基紀/空間設計社



①全景。②5階オーナー邸LDK。白を基調にしたオーダーキッチンがダイナミックな吹き抜けに映える。③6階テラス。④オーナー邸吹き抜け階段。⑤賃貸部分キッチン。床の仕様を変えたゾーニングで、ワンルームに変化を与えている。⑥ものづくり大学の学生たちが作った模型 ⑦6階テラスから臨む目黒川沿いの満開の桜。撮影: 編集部



この建物は躯体で苦勞しました。地中梁からウルボン筋を使用し、配筋方法で悩み、また変更が多く、どういう形になるか手探り状態でした。私道に面した建築の難しさを痛感しました。やはりローコストは厳しいです。賃貸住宅はSOHO形式にすると、少し家賃が高くてテナントが付くでしょう。終盤では、賃貸部分の入居も決まっていたのがプレッシャーでした。こうして出来上がった建物を見ると、建て主Cさんの情熱がファサードに表れていると思います。(畠中広隆主任)

トミービル 改修工事

北新宿の交差点に建つテナントビルの改修工事です。当初、計画道路にかかる部分の解体および解体部分に接する1F,2Fの改修のみを行う予定でしたが、建物が築20年近くになるため、途中から外壁のリニューアル工事を行うことになりました。

外壁に関しては、クラック部分のタイル剥がし、浮き部分の注入工事を施工しました。

タイル剥がし、解体は土日祭日に限定した工事だったため、予想より工期が必要になり、テナントに対して工事中の騒音、吹付けの臭いの問題でご迷惑をかけたかと反省しております。

(改修担当 宮島利夫工事長)



写真上: 改修前。1,2階に大きく張り出した部分に2店舗が入っている。



写真右: 改修後。張り出していた部分を撤去して白い外壁を施した。

所在地: 東京都新宿区
構造: RC造 地上11階 地下1階
用途: 事務所・店舗



鈴木基紀(すずき もとき) profile

北海道旭川市生まれ
 1979 早稲田大学理工学部建築学科卒業後、ヨーロッパ、北アフリカ放浪
 1980 建築家・鈴木恂に師事(丁稚の時代)
 1986 独立
 1987 (有)空間設計社 設立 現在に至る
 主な仕事
 1992年 IZVI
 1994年 IZCO
 1995年 海の家、クラブハウス(喜界島)
 1998年 DOME
 受賞
 1978 第13回 セントラル硝子国際設計競技 入賞
 1996 熊本県 アートポリスデザインコンペ 入賞
<http://home.s07.itscom.net/motoki>

今月は、Forgedの設計者鈴木基紀氏に話を伺いました。
 弊社ではほかに田園調布のM-Houseの施工もさせていただいています。

—鈴木先生はどのように建築の設計に取り組んでいますか。

鈴木:なにしろ与えられた設計条件に身を委ね、最初は手探り状態です。デザインは狙うものではなく、プロセスの中から自ずと姿を現してくるものだと考えます。混沌の中に仮説を積み上げて、徐々に姿を現す「部分と全体」を行き来して両者の関係を図ります。又、別の視点ですが、施主とのやり取りが深まってくると次第に「施主になりきる」ことができるようになります。大袈裟に言えば「憑依」かな…。最終的には「部分と全体の関係」に、施主らしさ、施主の「居住まい」が滲み出れば、それが一番だと考えます。

—「部分と全体」を行き来するというと…?

鈴木:ある「部分」を考えている時に、他の「部分」が刺激されてアクティブになるんです。そして連鎖反動的にアクティブな「部分」が次第が増えてきます。互いに呼び合う関係だったり、対立する関係だったり様々ですが、ザワザワと賑やかになるんです。そうこうするうちに「部分」が集合し始め、「全体」の姿がおぼろげに見えてきます。「全体」像は刻々と変化しますが、ある時点で、1番目の「全体」像を決めてしまいます。そして、その「全体」像に基づき、それぞれの「部分」を見直します。整理・統合することもあります。施主の要望はこの作業に取り込みます。作業を続けると2番目の新しい「全体」像が見えてきます。そこでまた、それぞれの「部分」を見直し、部分の再編成を試みて3番目の「全体」像を作り上げます。こんな感じで行き来するわけです。

又、例えばA案とB案があるとする。あるテーマにおいて、B案で良くない点がA案では良い。ではA案の良い点をB案に取り込みましょう…。別のテーマではB案が実に魅力的。ではこれをA案に頂戴しましょう…。つまりは「いいところ取り」ですね。そして、最終的に「どちらを選ぶか?」をより高い位置で判断できるようにする。つまり「アウフヘーベン(止揚)」ですね。最後には、好き嫌いを超え、どちらを選んでも良い、というところへ辿り着きます。

—アウフヘーベン、哲学用語ですね。ちょっと懐かしい言葉です。

鈴木:設計とはこういう「行きつ戻りつ」、又は試行錯誤の連続です。「部分と全体の関係」がいかに豊かで緊密であるか、が大事なんです。「関係性の美学」とも言うのかな。作業を重ねていくうちに、だんだん全てが泡立つようにアクティブになってくる時期がやがて訪れます。あちこちで火花が飛び散るような感じかな。

—そういう確かな感覚があるんですね。

鈴木:はい、あります。そしてこの状態が、ちょっとした契機で一挙に収斂しはじめ「全体」像が鮮やかに焦点を結び始めます。

—それって、感動的な瞬間ですね。

鈴木:そう。なんとも言いがたい喜びです。「至福の瞬間」ですね。建築の仕事は近隣問題やら、法律、工事予算など、うんざりすることが多いけど、この喜びがあるからこそ続けられる(笑)。僕は、このような設計作法を鈴木恂先生のもとで徹底的に叩き込まれました。

—鈴木さんは早稲田大学のご出身で、卒業後、鈴木恂先生のアトリエに入られたのですね。弊社では「スタジオエビス」の改修工事を時々やらせていただいています。

鈴木:僕は就職浪人。1年間待ちました。その間、海外を旅行しましたが、帰ってきたらタイミング良く空きができて入所できました。当時、恂先生のアトリエは神宮前の古い洋館にあり、天井の高い製図室に畳1枚の大きさの製図板とT定規を頂戴しました。ピンと空気の張りつめた雰囲気でしたね。アトリエでは7年間修行しました。

—設計事務所での修行って、どういう感じですか。

鈴木:例えば、「この階段のあり方をエスキスしなさい」とテーマを与えられる。ところが「何をどう考えて良いのか」が分からない。先輩社員にヒントをもらいながら1週間くらい悩んで、先生にプレゼン、つまり発表しなくてはならない。それが前日になっても考えがまとまらない。そして当日、先生を前にしても当然話は弾まない。失意のドン底…そして先生の話が始まる。コチンコチンの塊が徐々に解きほぐされ、縦糸と横糸を紡ぐような先生の話にはワクワクしたものです。アトリエでの修行はこの「ドン底感覚」と「ワクワク感覚」の繰り返しでしたが、とても贅沢なレクチャーでした。「部分と全体の関係」をようやくひとりで整理出来る様になったのは、独立する頃でしたね。

早稲田建築については、あのコルビジエの弟子だった吉阪隆正先生から、鈴木恂、象設計集団という2つの系譜が派生して、デザインは違えどもいずれもこつこつと議論を戦わせる設計作法が継承されました。

—昨年末、吉阪先生の回顧展がありましたね。

鈴木:展覧会の建物は「八王子セミナーハウス」でしたが、デザインの完成度の高さ・凄みを目の当たりにして、久し振りに身震いしましたね。「部分と全体の関係」が見事に出来上がっている。例えば丹下さんの代々木も、ほんとにすごいですよね。一時期までの建築家は間違いなく、「部分と全体の関係」を最大の関心事として設計している。そういうことが最近影をひそめているように思います。

—普通の人には、建物を見ただけではなかなか判断できないかと思えますが、建築をほとんどにわかって楽しむ贅沢はいいですね。

鈴木:そう、とても贅沢。気持ちが高揚します。欧米の家庭には、建築の全集が並んでいることが珍しくない。あちらでは、建築は教養、文化なんでしょうね。田園調布の施主Mさん(アメリカ人)も、F・L・ライトを相当勉強されていましたね。ライトの話題はそう頻繁に出ませんでしたが、結果的にライトのイメージがいつの間にか入り込んできました。無理をせず自然なかたちで施主の指向が建物に反映されたとしたら、設計者としては本当にうれしいですね。

—設計者の「コミュニケーション能力」などと一言で片付けてしまっただけは失礼ですね。奥が深い。

鈴木:怖さはありません。何千万円という財産である住宅を作るわけだし、施主は当然のことながら本気ですから、裏目に出ると、つらいことになる。—そういう意味では、建築家の地位が、日本ではまだまだ欧米のように高くないようですね。職能としても、要求される能力の割には、ほかの業界に比べて安くみられているような気がして…。

鈴木:間違いなく言えることは、欧米に比べ、設計のライセンスホルダーが圧倒的に多いということです。誰も彼もが財産という建築を作る資格を持っている訳です。欧米におけるレジスタード・アーキテクトの数はとても少ない。日本における建築家の職能を考えると、この問題はとても深刻です。

—鈴木さん自身は今、若い方に何か伝えていくことをなさっていますか。

鈴木:3年前から「ものづくり大学」のインターンシップ制度で、学生を受け入れてます。事務所に来て研修することで単位が取れるのです。学生はまだ何も出来ないわけですから、預かるこちらもつらいんですが(笑)、さきほど話した「喜びの瞬間」「ワクワク感覚」を感じ取ってくれば良いな、と思います。Forgedの模型も学生達に作ってもらいました。今年卒業した子がこの春から事務所に通っています。—今後も若い人が建築をやってよかったと思える環境がほしいものです。今日はどうありがとうございました。

「ガラス」

玉屋硝子工業株式会社
代表取締役

松田一良氏

今月はガラスについて、玉屋硝子工業株式会社松田一良社長に細山田工事部長とお話を伺いました。

ーガラスメーカーでは防犯、断熱性能を強化した機能ガラスをどんどん出しているようです。

松田:平成13年の法改正で、防犯について厳しい性能が求められるようになりました。どのメーカーも建物に簡単に侵入できないように、合わせガラスにして中間膜があることで割れにくい、貫通しにくいタイプの製品を出しています。それでも機能ガラスは全体の3割くらいでしょう。半分には届きませんね。

ー地震が頻発して、テレビ映像でビルのガラスが割れて地面に落下するシーンなども見ました。そういった影響はどうですか？

松田:新築では合わせガラスを入れる建物が増えています。既存の建物の場合はフィルムを張って応急処置をするところが多いですね。ガラス自体を取り替えるのは無理ですから。

ーフィルムを張るのもガラス屋さんの仕事なんですね。

ーガラスを入れるというのは、工事の工程の中ではどういう位置づけになりますか。

松田:デリケートなものですから、極力工程の後ろの方にしてもらわないと現場養生が大変です。躯体工事と仕上げの中間に位置します。工期も短いので、状況を見ながら現場の方でスケジュールを立ててもらわないとなりません。躯体が出来てオーダーして1、2週間は見てもらわないと……。ですから早めの依頼をいただければありがたいし、あらかじめ段取りもしやすいですね。

細山田:ガラスは、図面でそのままオーダーするということはありません。現場で必ず測ります。それから加工に入ります。運搬手順を考え、ときにはトラックを待たせておくなど綿密な打合せが必要です。

松田:最近の住宅は、ガラスそのもののウェイトが大きくなりました。昔は、サッシの部品という扱いだっただのが、少し前から、住宅の中でメインの見せ場として扱われるようになり、大きなサイズのものや珍しいものが増えてきています。

細山田:それだけ、施工も気を使うことが多いですね。

松田:床や階段にガラスを使う現場もありますね。



松田一良社長

ーガラスの廃棄処分、再利用についてはいかがですか。

松田:廃棄物として業者が持ち帰ったものはガレットという加工品にして、きれいなものはメーカーで再利用しますが、ちょっと汚ければトンいくら払って処分となりますね。それはもう解体業者や産廃業者の領域です。我々の倉庫にあるものは、ある程度の常用品の在庫と、近所の修理依頼のものくらいです。

ーご商売の方は、いかがですか。

松田:ガラス工事の基本は「その日のうちに直す」という言葉に尽きますね。文京区は学校が多いので修理依頼も比較的量がありますし、また大型商業施設のメンテナンス仕事もあるのでまずまずですね。

細山田:メーカーの方では値上げはどうですか、近いうちにあるのでしょうか。

松田:とりあえずガラスメーカー大手3社から値上げの声が出ています。今後の動向をみていきたいですね。

細山田:スポーツマンタイプの社長は現場の人間ともよく気が合うようです。今後ともよろしく願います。ーどうもありがとうございました。



高さ6mのガラス窓が入った現場。内装工事もあり養生には気を使う。

TOPICS/INFORMATION

「安全衛生大会 4月8日 渋谷商工会館」

今年も、辰安全衛生協会の「安全衛生大会」が開催されました。

90社130名の協力業者様お集まりいただき、この1年の活動報告、決算報告、次年度の活動計画・予算・役員のご決定とともに、弊社の経営状況などについても積極的にご報告させていただきました。

また、4月1日より施行された「個人情報保護法」について、社長より弊社の保護方針、プライバシーポリシーについて説明させていただきました。

昨年と同様、皆様のご協力を賜りながら、より安全な現場監理を推進してまいります。

今年度のスローガンは「**気を抜くな 慣れと油断は事故のもと**」です。よろしく願います。



今年の安全協力業者表彰会社。
左より初見電建(株)、横田工業(株)、(有)美装開発、(有)中原木工所、(株)大山工務店、泉幸工業(株)の皆様。

「0邸新築工事 地鎮祭」 静岡県熱海市 4月15日

熱海伊豆山の分譲地、初島が望める住宅です。

構造:S造+RC造
地上2階 地下1階

用途:専用住宅

設計:芦原太郎建築事務所

完成予定:2005年12月



「Y邸新築工事 地鎮祭」 渋谷区 4月30日

文化村隣接地に建つ、松涛にふさわしい住宅です。

構造:RC造
地上3階 地下1階

用途:専用住宅

設計:内海智行/ミリグラムス

スタジオ一級建築士事務所

完成予定:2005年12月



編集後記

・飛び石の休暇をとれば10日間の休みも可能という長いゴールデンウィークが終わりました。辰では連休谷間の5月2日は、一部を除き全ての現場をお休みとさせていただき、6日は「個人情報保護法」について全社員研修を行いました。

(株)辰 通信 Vol.62 発行日 2005年5月10日 編集人:松村典子 発行人:森村和男

